

第2節 生活習慣病の状況

1 現 状

平成17年における本県の死因をみると、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患（高血圧性除く。）第3位が脳血管疾患となっており、近年は同じ傾向が続いています。これら三大疾病に糖尿病及び高血圧性疾患を加えたいわゆる生活習慣病による死亡者は全死亡者数の6割以上を占めています。

図表2-11 群馬県の死因別死亡率（人口10万対）の推移

死 因	H7	H12	H13	H14	H15	H16	H17
悪性新生物	201.5	230.4	236.1	237.9	246.1	249.0	261.5
	26.2%	28.5%	29.2%	28.9%	29.1%	28.8%	28.0%
心疾患 （高血圧性除く）	117.8	124.9	125.1	127.5	131.4	136.9	154.4
	15.3%	15.4%	15.5%	15.5%	15.5%	15.8%	16.6%
脳血管疾患	128.8	121.8	118.7	119.1	118.0	117.9	125.9
	16.7%	15.1%	14.7%	14.5%	13.9%	13.6%	13.5%
糖尿病	11.1	9.9	9.5	11.5	10.7	10.5	12.0
	1.4%	1.2%	1.2%	1.4%	1.3%	1.2%	1.3%
高血圧性疾患	6.5	6.8	6.9	6.8	6.7	5.7	7.3
	0.8%	0.8%	0.9%	0.8%	0.8%	0.7%	0.8%
生活習慣病小計	465.8	493.8	496.3	502.8	512.9	520.0	561.1
	60.5%	61.1%	61.5%	61.0%	60.6%	60.1%	60.2%
その他	304.2	314.9	311.2	321.3	333.8	344.6	371.2
	39.5%	38.9%	38.5%	39.0%	39.4%	39.9%	39.8%
全死亡者	770.0	808.7	807.5	824.1	846.7	864.6	932.3
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：群馬県「健康福祉統計年報」より群馬県保健予防課作成

2 課 題

社会・経済の発展や医療技術の進歩等に伴って、県民の平均寿命は延びていますが、生活習慣病は依然として大きな健康障害要因となっており、生活習慣病に係る療養の長期化、重症化が老人医療費の増加につながっているものと考えられます。

こうしたことから、生活習慣病の発症を予防することや重症化を早期に食い止めることが、県民全体の健康の増進に直結するものと捉え、重点的に取り組んでいく必要があります。

生活習慣病は、文字通り、食事や運動、喫煙などの日常の生活習慣に主な原因があるとされており、その予防を図るためには、県民一人ひとりの健康に関する意識の向上や生活習慣の改善に向けた行動の変容が不可欠ですが、他方でこうした個人的な取り組みを社会全体でサポートする体制の構築や情報提供など動機付けのための働きかけが重要と考えられます。